

木更津工業高等専門学校

平成20年度 地域共同テクノセンター活動報告

I 平成20年度活動の結果と点検評価

1. 新たな活動

- 1. 1 教職員OBによる地域振興
- 1. 2 外部資金獲得に関する啓蒙活動

2. 継承した事業活動

- 2. 1 木更津工業高等専門学校技術振興交流会への協力
 - 2. 1. 1 テクノフォーラム
 - 2. 1. 2 技術振興交流会分科会
 - 2. 1. 3 レベルアップ講座
- 2. 2 生涯教育, 出前授業など
 - 2. 2. 1 2008 サイエンススクエア
 - 2. 2. 2 出前授業
 - 2. 2. 3 公開講座
 - 2. 2. 4 テレワークセミナー
- 2. 3 外部資金の確保
 - 2. 3. 1 共同研究, 受託研究, 奨学寄附金及び受託試験
 - 2. 3. 2 技術相談事業
- 2. 4 その他外部機関等との交流
 - 2. 4. 1 高専間・大学間交流
 - 2. 4. 2 市町村との交流
 - 2. 4. 3 県との交流
 - 2. 4. 4 委員会・フォーラム等への参加
- 2. 5 広報事業
 - 2. 5. 1 メディア作成
 - 2. 5. 2 メディア発信
 - 2. 5. 3 公的機関の広報紙発信

3 ラボの稼働状況

4 課題

II 運営委員会の実績

III 運営委員会委員と事務部担当

— 地域共同テクノセンター運営委員会 —

I 平成 20 年度活動の結果と点検評価

1. 新たな活動

1. 1 教職員 OB による地域振興

平成 12 年に地域共同テクノセンターが設立され地域連携活動を活発にしてきたが、更なる活動の重要性を認識し木更津高専技術振興交流会を平成 16 年に設立した。この間は、順調に共同研究の件数・金額が増加している（9 件/H17、7 件/H18、13 件/H19）。地域に高専の活動が広まり、共同研究の成功事例が増えるにつれ、地域連携活動の業務は際限なく増え続ける兆候が見え始めている。もちろん地域連携活動には教育に生かせる活動も多いが、それだけではない。あまりに業務が繁多になれば本務である教育活動にも支障を起ししかねない。

教育活動とのバランスを保ちながら、ますます地域共同業務を活性化させるために、学校の内部事情をよく知った人材に連携コーディネータを依頼する必要がある。そこで教職員 OB を地域企業・社会との連携コーディネータとして依頼し、有用な人材の力を地域社会と高専のために活用することとした。

主な地域連携活動の内、OB 教員に委託する業務として適している業務は、

- 1) 県との情報交換・連携業務。主に東葛地区での技術相談・産業振興センターとの連携。
- 2) 出前授業・各種セミナーのコーディネータ業務。
- 3) 民間からの技術相談に対するコーディネータ業務。

などであり、これら地域連携業務を、平成 19 年に発足した OB 教職員の会に委託するプログラムとして申請し採択された。本プログラムの概略を図 1.1 に示す。

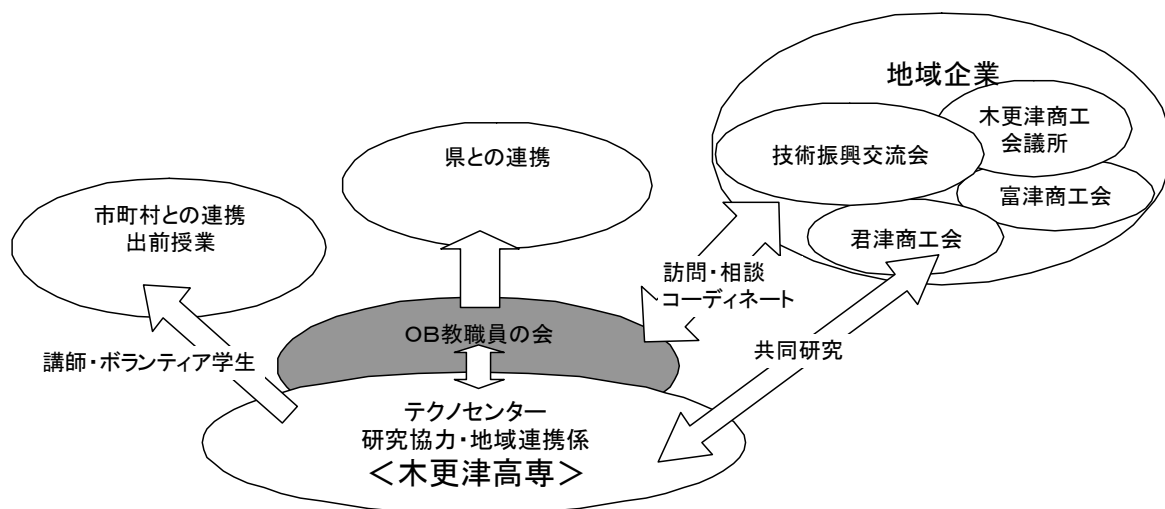


図 1.1 プログラムの概略

本プログラムの実施によって、得られた結果の要約を以下に示す。

1. 県内の市町村（木更津市、市原市、袖ヶ浦市）との連携を行った。特に、従来連携等をあまり行っていなかった臨海工業地帯のある市原市で重点的に PR 活動をして頂いた。市原市では中小企業サポート事業を実施しており、市内中小企業との連携依頼があった。さらに、市原商工会議所からは地域力連携拠点事業パートナー協力依頼があった。
2. 東葛テクノプラザにおいては、月数回のコーディネータを派遣し、技術相談を行った。企業からは、高専は大学に比べ「敷居が低い」という好感があり技術相談しやすいとの意見をいただいた。これからの技術相談の増と共同研究等への発展が期待される。
3. 木更津市内中学校、県北地区の我孫子市教育委員会及び我孫子市内中学校などを訪問し出前授業の説明を行った。県北地区で出前授業を行うこととなれば、入学志願者の増にも期待ができる。
4. 技術振興交流会会員の地域企業を廻り、技術相談等を行った。企業においては、技術相談の方法

及び研究分野の詳細がわかったと好評だった。また、本校OBのコーディネータなので、企業の工場等を直に見学し技術相談の内容を聞くことが出来たのが大きかった。このように、非常に良い評価を得た。

1. 2 外部資金獲得に関する啓蒙活動

アメリカ発の世界同時不況に大きく揺れ動いた平成20年度であった。この不況が、平成21年度も継続することが容易に予想されたことから、本校の3本柱（教育・研究・地域貢献）の一つである研究について、資金不足による停滞が危惧された。そこで、科学研究費の申請を積極的に行うように全教員にお願いすると共に、独立行政法人科学技術振興機構（JST）茨城サテライトよりコーディネータをお招きし、12月9日にJST競争的資金説明会を実施した。

また、学校全体で対応する必要がある大型競争的資金獲得に向けて、獲得実績のある宮城高専と福島高専のご担当教員をお招きし、獲得のノウハウをご教示して頂いた。

【点検評価】

地域共同業務を活性化させるために、教職員OBを地域企業・社会との連携コーディネータとして依頼し、本校の研究力・技術力などをPRして頂いた。その結果、新たに本校への関心を持たれた企業が大幅に増えた。今後は、共同研究等への発展を目指すために、現教職員も学協会活動等によるさらなるPRを積極的に展開する必要がある。

科学研究費の申請・独立行政法人科学技術振興機構などの競争的資金獲得の必要性について、学校全体での再確認ができた。また、学校全体で対応する必要がある大型競争的資金獲得に向けて、キックオフができた。これら資金の獲得に向けて、積極的に申請して行くことが必要である。

2. 継承した事業活動

2. 1 木更津工業高等専門学校技術振興交流会活動

参考：木更津工業高等専門学校技術振興交流会 2008年度報告
（担当：泉、大野副センター長）

2. 1. 1 テクノフォーラム

例年に倣い2回開催された。

今年度は泉副センター長が主担当になり企画を立てた。

表 2.1 平成20年度テクノフォーラム講演内容

回数	講演内容（講師）	日時・参加人数
9回	①「働く人々の健康づくり」 講師：東京大学大学院新領域創成科学研究科生涯スポーツ健康科学研究センター特任准教授 福崎千穂氏 ②「背骨と健康」 講師：木更津工業高等専門学校嘱託教授 大藤晃義氏	10月21日（火）実施 参加者 104名（内56名学内）
10回	①「町工場が減びたら日本も減びる～モノづくりで勝ち残る条件～」 講師：政策研究大学院大学教授 橋本久義氏 ②「技術振興交流会と地域連携コーディネート」 講師：木更津工業高等専門学校嘱託教授 小平眞次氏 ③「中小企業連携コーディネートについて」 講師：木更津工業高等専門学校嘱託教授 高上輝雄氏	3月5日（木）実施 参加者 99名（内56名学内）

2. 1. 2 技術振興交流会分科会

委員長会議が11月5日に開催された。また、分科会は7に統合され、延べ14回の分科会が実施された。

なお、分科会委員長は本校教員が担当しており、内容については、各分科会の議事要旨にまとめられている。また、「木更津工業高等専門学校技術振興交流会 2008 年度報告」にリストがまとめられている。

2. 1. 3 レベルアップ講座

今年度は、レベルアップ講座の企画・準備を積極的に展開した。レベルアップ講座の企画立案は、技術振興交流会員の皆様からの意向を聞いた上で、要望のある講座を企画する手順が本来の方法である。しかし、今年度は時間が限られていたため、本校教職員が実施可能な13講座を提案し、会員の皆様にご案内することにした。

レベルアップ講座は、規則上で会員3名以上の申し込みが無いと開催できないため、実施できたのは、レベルアップ（ミニ）講座「風力発電施設の耐震設計の考え方を学ぼう」、「Excelによる科学技術計算および統計処理」および「木更津高専上総掘りプロジェクト」の3講座であった。

【点検評価】

フォーラムは例年どおりの実施であるが、分科会の回数が減少してきた。また外部からの参加者が少なくなっていることも指摘されている。レベルアップ講座は、13講座開設したが実施されたものが3講座である。このことから、もう1年レベルアップ講座の開催状況を見て、今後の方針を決めて行く必要があると考えられる。

一方で、技術振興交流会の存在は外部評価等では高く評価されており、また地域に根ざした高専を掲げる上では必要不可欠な存在である。

2. 2 生涯教育, 出前授業など

2. 2. 1 2008 サイエンススクエア

高専機構本部より依頼を受け、2005年度から続いて、今年度も国立科学博物館のサイエンススクエアに参加した。参加教職員12名、学生11名が参加した。本校のテーマは人気が高く、全日程で240名全ての予約が埋まった。当日のアンケートの結果では、ほとんどの参加者が満足と答えている。参加者の年齢は小学生93%で、内1~3年生が40%、4~6年生が53%であった。

表2.2 サイエンススクエア 実施日程表

2008年8月	19日(火)	20日(水)
企画名	万華鏡を作ろう	
	君にも作れる光通信	

2. 2. 2 出前授業

出前授業のリストを表 2.3 に示す。

表 2.3 出前授業リスト

月 日	出前先	テーマ	参加人数	担当者
7月11日	木更津第一中学校	万華鏡と光の性質	78	高橋(邦), 嘉数
7月16日	鎌足中学校	君にもつくれる光ドッキハートメーター	30	栗本, 米村, 白木
8月18日	木更津商工会議所	ウインドカーの製作	小中学生:50	板垣, 清水, 伊藤, 学生:8名
8月18日	木更津商工会議所	ペットボトルロケットの製作	小中学生:22 保護者15名	金綱, 石出, 高橋(美), 歸山, 内田, 黄野, 高橋(秀), 学生:10名
8月19日	畑沢中学校	万華鏡の制作	30	高橋(邦)
8月19日	サイエンススクエア	万華鏡の制作	60	嘉数
8月20日		万華鏡の制作	60	高橋(邦), 嘉数
8月19日	サイエンススクエア	君にもつくれる光通信	120	栗本, 丸山, 白木
8月20日				
9月12日	木更津第一中学校	電池の要らない不思議なラジオ (ゲルマラジオ)	98	上原, 大澤, 石井, 大野, 飯田, 浅野, 熊谷, 小平, 吉崎, 立石, 今村
9月18日	木更津第一中学校	君にもつくれる光通信	120	栗本, 白木
9月23日	清和公民館	万華鏡の制作	30	高橋(邦)
10月17日	根方中学校	君にもつくれる光通信	60	栗本, 大枝
10月19日	袖ヶ浦図書館	万華鏡の制作	15	高橋(邦), 嘉数
10月23日	波岡中学校	万華鏡と光の性質	35	高橋(邦), 嘉数
10月24日	波岡中学校	万華鏡と光の性質	70	高橋(邦), 嘉数
11月3日	平川公民館	万華鏡の制作	20	高橋(邦)
11月8日	木更津第三中学校	ウインドカーの製作	中学生:15	板垣, 清水, 石出, 高橋(秀), 学生2名
11月8日	木更津第三中学校 (地域ふれあいデー)	金属探知機を作って宝探し	20	大澤, 岡本(保), 飯田
11月13日	太田中学校	万華鏡と光の性質	144	高橋(邦), 嘉数
11月14日	太田中学校	万華鏡と光の性質		高橋(邦), 嘉数
11月20日	太田中学校	ロボットの製作	30	鶴田, 専攻科学生2名
11月21日	太田中学校	君にもつくれる光ドッキハートメーター	40	栗本, 米村, 白木
12月11日	太田中学校	電池の要らない不思議なラジオ (ゲルマラジオ)	163	大澤, 石井, 石川, 上原, 岡本, 大野, 浅野, 飯田, 吉崎, 立石, 今村
2月6日	木更津第二中学校	君にもつくれる光通信	144	栗本, 東, 米村, 白木

2. 2. 3 公開講座

公開講座の実施リストを表 2.4 に示す。公開講座は 20 講座で件数はやや減少である（平成 19 年度 26 件、18 年度 31 件、17 年度 26 件、16 年度 14 件、15 年度 15 件、14 年度 10 件）。アンケート結果によれば、やや満足も含めた満足度は、97.3%であった。

表 2.4 公開講座の実施実績

NO	講座名	受講対象者	学科等名	代表者	定員	受講者数
1	背骨と健康	一般(中学生以上)	機械工学科	黄野銀介	30	34
2	プログラミングの知識なしでマイコンを動かそう	中学生	電子制御工学科	鈴木 聡	10	1
3	あなたに宅地選びのコツを教えます！ －事例に基づく地盤・地形データと路線 価の見方－	一般成人	環境都市工学科	鬼塚信弘	5	1
4	牛乳ミニパックで橋づくり	小学2～4年	環境都市工学科	佐藤恒明	5	6
5	第三種電気主任技術者のための直前講座	一般	電気電子工学科	上原正啓	10	1
6	簡単なラジオの製作	小・中学生	電気電子工学科	石川雅之	10	12
7	IT講習会	一般(小学生高学年以上)	ネットワーク情報センター	増田重史	30	7
8	青少年のためのおもしろサイエンス	小・中学生	基礎学系	相川正美	64	22
9	移動ロボット製作教室	中学生	電子制御工学科	泉 源	15	12
10	サンドブラストアートを楽しもう	一般(中学生以上) (保護者同伴の場合は小学生可)	実習工場 (機械工学科)	秋葉和美	15	6
11	パソコンでプレート彫刻～オリジナルキーホルダー作り～	一般(中学生以上)	技術支援センター	湯田雅紀	10	3
12	地震ってなに？－過去の地震被害状況の説明と液状化模型実験の体験－	小学校高学年以上	環境都市工学科	鬼塚信弘	20	7
13	英語資格試験に挑戦しよう！	一般(中学生以上)	人文学系	中村俊昭	25	4
14	楽しいパソコンセミナー～初心者のためのパソコン教室～	一般	技術支援センター	倉持憲司	20	18
15	金属探知器を作って宝探し！！	小学校高学年以上	電気電子工学科	飯田聡子	10	7
16	柔道ってどんなもの	小学生以下	人文学系	清野哲也	20	22
17	青少年のためのおもしろサイエンス	小・中学生	基礎学系	相川正美	56	34
18	写真入りの年賀状を作ろう ～初心者のためのパソコン教室～	一般	技術支援センター	高橋美喜男	20	21
19	LEDでクリスマスイルミネーションを作ろう！	中学生	電子制御工学科	坂元周作	10	3
20	陸上競技教室～速く走るための「コツ」～	小・中学生	人文学系	坂田洋満	20	54

2. 2. 4 テレワークセミナー

木更津市との協働事業であり、10月から12月にかけて実施する市民講座である。実施実績を表2.5に示す。今年度テーマ数は6件（平成19年度8件、18年度11件、17年度10件、16年度14件、15年度16件、14年度8件）であり昨年度から減少した。アンケートによる満足度は94.9%であった。

表2.5 テレワークセミナー実施実績

	講座名	実施時期	受講対象者	学科等名	担当者氏名	受講定員	受講者数
1	レゴロボット(第1回)	11月8日(土)	小学生	電子制御工学科	鈴木 聡 星野真紀	10	10
2	エクセルで簡単家計簿です！	11月9日(日)	高校生以上	情報工学科	米村恵一	18	11
3	コンクリートでつくるミニクリスマスツリー	11月15日(土)	小学生および保護者	環境都市工学科	青木優介	10	9
4	インターネットとブログ	11月16日(日)	一般	電気電子工学科	飯田聡子	18	16
5	パワーポイントでプレゼンをやってみよう！	11月22日(土)	高校生以上	情報工学科	東 雄二	18	7
6	レゴロボット(第2回)	11月30日(日)	小学生	電子制御工学科	鈴木聡 高橋美喜男	10	9

【点検評価】

出前授業や、テレワークセミナーは減少傾向にあり、それぞれの担当者がこれまでの参加人数を考慮してテーマを精査している傾向にある。また理数大好きプランが昨年度で終了したにもかかわらず、各中学校からの要求は減少していない。今後は、本校での予算立てと、実施方式の検討が課題である。

2. 3 外部資金の確保

2. 3. 1 共同研究、受託研究、奨学寄附金及び受託試験

共同研究、受託研究、奨学寄附金及び受託試験について、平成14年度からの実績を表2.6に示す。共同研究は年々増加している。件数も増加して13件である。受託研究については、急激に増加している。この中には、科学技術振興機構（JST）のシーズ発掘試験も含まれている。奨学寄附金の件数は昨年度に比べると増加しているが、景気が低迷している影響で金額は減少している。

表2.6 外部資金

年度	共同研究		受託研究		奨学寄附金		受託試験
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	金額(千円)
H14	1件	2,000	0件	0	16件	11,563	353
H15	3	5,600	2	1,250	16	9,180	636
H16	7	11,360	1	105	19	12,930	152
H17	9	13,110	3	1,618	18	10,900	125
H18	9	15,190	1	1,180	23	15,430	187
H19	13	19,725	1	1,180	16	13,637	718
H20	15	20,525	5	11,331	18	9,409	404

科学研究費補助金の採択状況を表 2.7 に示す。科学研究費補助金は、採択件数・金額共に減少している。

表 2.7 科学研究費補助金（含む継続）

年度	基盤C		奨励		若手B		若手(スタートアップ)		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成14年度	3(1)	5,100			2	1,900			5(1)	7,000
平成15年度	1(2)	2,500			3(1)	5,400			4(3)	7,900
平成16年度	1(2)	2,000	1	750	1(4)	3,900			3(6)	6,650
平成17年度	0(2)	1,300	2	1,440	1(2)	3,400			3(4)	6,140
平成18年度	5(1)	10,200	1	680	1(1)	3,500			7(2)	14,380
平成19年度	0(6)	4,800	7	3,620	2(2)	6,100			9(8)	14,520
平成20年度	1(4)	5,200	2	1,160	1(3)	2,000	1	1,330	5(7)	9,690

単位：千円

直接経費のみ表示

※()は継続分で外数

2. 3. 2 技術相談事業

本校における技術相談：27 件（平成 19 年度 35 件、18 年度 12 件、17 年度 13 件、16 年度 14 件）
 教職員 OB による技術相談、企業訪問等：132 件
 東葛テクノプラザでの技術相談対応は、東葛テクノプラザからの提案で今年度より中止となった。
 第 1 章に示した教職員 OB による技術相談等の対応により、市原市との協働事業が新たに始まった。

【点検評価】

不況下にも拘らず、共同研究・受託研究・寄附金・受託試験の全てでがんばっていると評価できる。来年度も厳しい景気の中で同様の頑張りが必要である。そのためにも、科学研究費の申請・独立行政法人科学技術振興機構などの競争的資金獲得への活動を積極的に展開すると共に、研究結果の公表等による PR 活動を推進する必要がある。

2. 4 その他外部機関との交流

2. 4. 1 高専間・大学間交流

- 1) 全国高専テクノフォーラム：8 月 20 日～21 日（呉）
 出展：パネル展示（高橋（秀）、青木、岡本）
- 2) 関東信越地区テクノセンター長会議：9 月 20 日（東京高専）
 高橋（秀）

2. 4. 2 市町村との交流

- 1) 木更津異業種交流プラザ総会：4 月 10 日
 高橋（秀）、大野、正木
- 2) 木更津異業種交流プラザ例会参加
 石井（建）(5/8)、鬼塚(6/12)、歸山(7/10)、沢口(9/11)、石川雅之(10/9)、白木(11/13)、柴田(2/12)、福地(3/12)
- 3) 夢工房 2008（木更津商工会館及び潮浜公園特設会場）：8 月 18 日
 商工会議所青年部との連携事業
 ペットボトルロケットの製作と打ち上げ、ウインドカーの製作とタイムトライアルを実施。
 宣伝、受付を商工会議所が担当。小学生を中心に約 70 名の児童生徒が物作りを体験した。
 参加者（高橋（秀）、石出、板垣、黄野、内田、伊藤、歸山、清水、金綱、高橋（美））

- 4) 君津ブロック商工会職員協議会：12月12日
高橋（秀）、正木
- 5) 木更津商工会議所賀詞交換会：1月7日
校長、高橋
- 6) 木更津商工会議所新年会：1月15日
青木、泉、正木
- 7) 木更津市との連携
テレワークセミナー 11月 → 2.2.4項参照
木更 Con への協力

2. 4. 3 県との交流

- 1) 千葉県異業種交流融合化協議会 第16回通常総会及び経営力向上セミナー：6月19日
大野、正木、三浦
- 2) 東葛テクノプラザ大学研究オフィス担当者会議：10月22日
正木
- 3) 中小企業新連携推進県大会：11月26日
高橋（秀）
- 4) ビジネスマッチングフォーラムイン千葉（千葉県中小企業団体中央会）：2月4日
高橋（秀）、青木、福地（研究事例発表）、正木、三浦

2. 4. 4 委員会・フォーラム等への参加

- 1) コラボ産学官千葉支部第1回通常総会：5月14日
高橋（秀）、正木、三浦
- 2) コラボ産学官第3回千葉支部連絡協議会：7月25日
正木
- 3) 高専機構 知的財産研修会：10月16日
正木、三浦
- 4) 千葉エリア産学官連携フォーラム（独）中小企業基盤整備機構）：11月19日
青木、大野
- 5) コラボ産学官第2回コラボ千葉フォーラム：11月18日
高橋（秀）、泉、上村（研究事例発表）、正木
- 6) 理数教育における地域型キャリア教育推進事業 千葉県木更津市研究地域第2回実行委員会（千葉県教育庁）：2月17日
青木
- 7) コラボ産学官「出張相談会」in 四街道：2月18日
高橋（秀）、正木、三浦
- 8) コラボ産学官第4回千葉支部連絡協議会：3月11日
三浦

2. 4. 5 その他

技術振興交流会役員会：5月8日

技術振興交流会総会：5月20日

技術振興交流会役員と商工会議所への年始挨拶（高橋（秀）、正木）：1月14日

【点検評価】

昨年とほぼ同等の交流は実績である。

2. 5 広報事業

2. 5. 1 メディア作成

- ① 2007年度事業報告（1,200部作成）
- ② 2008年度ガイドブック（1,200部作成）
- ③ Web ページの更新（テクノセンターのページ）

- ④ テクノセンターニュース第13号 (150部作成)
- ⑤ テクノセンターニュース第14号 (150部作成)

2. 5. 2 メディア発信

- ① 房総ファミリア新聞

2. 5. 3 公的機関の広報誌発信

- ① 市役所の広報紙
- ② 商工会議所等の会報

【点検評価】

例年通りの広報活動である。

3 ラボの稼働状況

平成13年度からの各ラボの使用状況を表3.1から3.7に示す。

表 3.1 平成13年度利用報告

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	パルス型磁歪センサによる応力測定法の各種測定法の各種構造物への応用	黒川章二	学会発表等6件
2	超伝導を用いた高感度サブミリ波受信機の開発	石井孝一	
3	自動車ガラス除去に関する技術開発(君津マイカーセンター)	松村志真秀	特許出願
	カイロプラクティック施術の人体への影響	大藤晃義	

表 3.2 平成14年度利用報告

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	EMセンサによる鋼材応力モニタリングについての研究 光ファイバーセンサによるコンクリート歪みモニタリングについての研究	黒川章二	学会発表等3件
2	卒業研究, 特別研究で使用	石井孝一, 小平眞次	
	誘電体位相器の設計	泉源	学会発表等2件
3	自動車ガラス除去に関する技術開発(君津マイカーセンター)	松村志真秀	
	カイロプラクティック施術の人体への影響の基礎研究	大藤晃義	学会発表等5件

表 3.3 平成15年度利用報告

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	モニタリングによるコンクリート建造物の補修について 光ファイバーセンサによるコンクリート建造物の変位	黒川章二	学会発表等8件
2	雲観測用95GHzFM-CWモノスタティックレーダーの開発	石井孝一	学会発表等3件(千葉大)
	誘電体位相器の設計	泉源	学会発表等2件
3	カイロプラクティック施術の人体への影響の基礎研究	大藤晃義	学会発表等4件

表 3.4 平成16,17年度利用報告

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	塩害劣化環境に位置するRC構造物の維持管理手法の構築(東電工業株式会社)	黒川章二	学会発表等2件
2	雲観測用95GHzFM-CWモノスタティックレーダーの開発(千葉大)	石井孝一	学会発表等6件(千葉大)
3	人体のバイオメカニクスの研究介護予防の身体へ及ぼす影響 (マニュアルメディスン研究所, 徒手医学研究所)	大藤晃義	学会発表等9件

表 3.5 平成 18 年度利用報告

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	塩害環境下におけるコンクリートの維持管理に関する研究（東電工業株式会社）	青木優介	学会発表等 2 件
2	雲観測用 95GHzFM-CW モノスタティックレーダーの開発（千葉大）	石井孝一	学会発表等 6 件 (千葉大)
3	人体のバイオメカニクスの研究介護予防の身体へ及ぼす影響 (マニュアルメディスン研究所, 木更津市役所)	大藤晃義	学会発表等 7 件

表 3.6 平成 19 年度利用報告

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	塩害環境下におけるコンクリートの維持管理に関する研究（東電工業株式会社）	青木優介	学会発表等 3 件
2	人体のバイオメカニクスの研究、介護予防の身体へ及ぼす影響 (マニュアルメディスン研究所, 木更津市役所)	黄野銀介	未提出
3			
3	真直度測定器の開発	黄野銀介、鈴木聡	未提出
4	共同測定室		未提出

表 3.7 平成 20 年度利用報告

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	塩害劣化等により鉄筋にマクロセル腐食が生じた部材の診断・補修・補強方法の開発に関する研究（その 2）	青木優介	学会発表等 5 件
2, 3	真直度測定器の開発	黄野銀介、鈴木 聡	学会発表等 2 件
2, 3	・人体のバイオメカニクスの研究 ・介護予防の身体へ及ぼす影響	黄野銀介	学会発表等 9 件

【 点検評価 】

20 年度はラボでの研究活動が積極的に展開されている。また、共同測定室の利用状況を使用者が記録できるように、使用記録所を室内に設置した。

4 課題

- (1) 共同利用施設の利用頻度向上
- (2) 技術振興交流会のレベルアップ講座の開催数の増加
- (3) ラボの装置，電子顕微鏡の管理体制見直し
- (4) 特許取得および競争的資金獲得に関する啓蒙活動

II 運営委員会の実績

第1回 4月8日 第2回 5月1日 第3回 6月9日 第4回 7月15日
第5回 9月11日 第6回 11月27日 第7回 1月6日 第8回 1月29日
第9回 3月12日

III 運営委員会委員と事務部担当

センター長	高橋 秀雄 (機械工学科)	
副センター長	大野 貴信 (電気電子工学科), 泉 源 (電子制御工学科), 青木 優介 (環境都市工学科)	
センター委員	五十嵐譲介 (人文学系)	嘉数 祐子 (基礎学系)
	黄野 銀介 (機械工学科)	岡本 保 (電気電子工学科)
	坂本 周作 (電子制御工学科)	東 雄二 (情報工学科)
	石川 雅朗 (環境都市工学科)	
	島田 良雄 (事務部長)	
事務部	岡部 久雄 (総務課長)	
	正木 昭弘 (研究協力・地域連携係長)	三浦 創 (研究協力・地域連携係)